

北朝鮮に拉致された人々を救出しよう いま日本人自身のプライドが問われています



■北朝鮮に拉致された人々(日本人)は70〜100名以上!?

昭和五十一年(二十五年前)新潟市で中学校からの帰宅途中に拉致された横田めぐみさんや、昭和五十八年(十九年前)ロンドンでの語学留学の帰路、忽然と消息を断った神戸市の有本恵子さん(当時二十三歳)をはじめ、北朝鮮「拉致事件」の被害者は、八件の事件と十一人の被害者とされていますが、韓国へ亡命した北朝鮮の人々の証言や、事件に関与した人の証言により被害者は少なくとも七〇名、可能性のある人々を加えると一〇〇名以上の可能性があります。

■「拉致事件」は国際問題以上に、国内問題

最近の新たな事実証言によって政府は「有本恵子さん事件」をやっと認定しましたが、横田さん、有本さんのご両親は二十年の間、わが子の救出のために、筆舌に尽くせぬ苦勞をされてきたのです。私たち国民の生命を守るべき政府は、意図的に事件を過小評価して、被害者が明らかでない事件についてもその認定を遅らせようとしてきました。それだけではなく、北朝鮮に対してこれまで「二〇トンもの「食糧支援」をしたにもかかわらず、あることがテポドンミサイルと不審船の返礼を受けたのです。与野党を問わず、危機感の欠如には開いた口がふさがりません。一体誰のための政治を行っているのでしょうか?」

■北朝鮮の屁理屈にだまされてはいけません!

北朝鮮は、わが国が「拉致事件」に言及するたびに、「過去の侵略に対する償いと謝罪」を持ち出して、ヒステリーを起こします。しかし、果たして彼らにそれを言う資格があるのでしょうか?

北朝鮮ではここ数年で何百万人もの人々が飢えて亡くなりました。それにもかかわらず、金正日軍事独裁政権は日本を含む各国からの援助物資を、困窮を極める民衆には支給せず、一部のエリートたちのみが、それを欲しいままにしています。

北朝鮮の振る舞いは、およそ国際的なマラルや常識に大きく反しています。今の北朝鮮政府は、人道支援や補償を受け取る資格もないヤクザ国家であり、まともに話ができる相手ではないということです。北朝鮮の屁理屈に付き合っていたらきりがありません。

■わが国の「戦後の歪み」は、端的に「拉致事件」に現れています!

深刻な人権問題であり、重大な主権侵害である「拉致事件」は、北朝鮮が狂気の国策を推進する過程で発生した事件です。犯人は個人ではなく「北朝鮮政府」です。しかし、その犯人と相対する日本政府は、未だに「ねばり強く交渉する」と表明しています。

私たち新風は、「拉致事件」の解決がここまで遅れてしまった背景には、政府や官僚の一時逃れの職務怠慢のみならず、政治構造そのものに根深い原因があると考えます。

新風はこれを「戦後の歪みの凝縮」と表現します。今後二度と「拉致事件」を発生させないために、失われた「安心」を取り戻すために、勇気と信念を持って「戦後」と決別しましょう。

その第一歩は、いたずらに北朝鮮に媚びるのではなく、毅然として「拉致した人々を返せ!」と、奮しに屈しない強い意志を伝え、ありとあらゆる手段・方法を尽くして被害者全員を取り戻すことです。

新風は「拉致事件」の解決に向け、全力投球で頑張る唯一の政党です

維新政党・新風本部

ホームページ <http://www.shimpu.jpn.org/>
〒604-0912 京都市中京区二条通河原町東入
京都書店会館2F
TEL.075-256-1545 FAX.075-241-2193
〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5
麹町ロイヤルビル401号
TEL.03-3263-7591 FAX.03-3263-8790